

常任委員会の動き

第1常任委員会

《平成25年1月18日開催》報告及び審議事項

- 【総務部】
 - 防災マップについて 他
- 【地域振興部】
 - 第2次留萌市食育推進計画の策定について
 - 平成24年度消費者生活相談の活動状況について
 - 留萌市観光振興ビジョンの策定について
 - 日本ハム留萌市応援大使事業について 他



防災ガイドマップ

《平成25年1月23日開催》報告及び審議事項

- 【都市環境部】
 - 一般廃棄物最終処分場被覆施設の倒壊について
- 《平成25年2月22日開催》報告及び審議事項
- 【総務部】
 - 平成24年度補正予算概要及び平成25年度予算概要について
 - 平成25年度主要事業について
 - 留萌市一般職員給与と条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市退職手当支給条例等の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市災害対策本部条例の一部を改正する条例制定について
 - 留萌市防災会議条例の一部を改正する条例制定について 他

- 【地域振興部】
 - 広報誌に係るプロポーザルの実施状況について
 - 留萌市男女共同参画基本計画(案)について
 - 第2次留萌市食育推進計画(案)について
 - 留萌市観光振興ビジョン(案)について
 - 平成24年度補正予算について
 - 平成25年度地域振興部主要施策について
 - 港湾環境整備事業について 他
- 【都市環境部】
 - 一般廃棄物最終処分場被覆施設の事故報告について
 - 専決処分の報告(損害賠償)について
 - 平成24年度3月補正予算(水道事業・特別会計)及び平成25年度予算(水道事業・特別会計)について
 - 留萌市水道事業給水条例の一部を改正する条例について
 - 留萌市営住宅等の整備基準に関する条例について
 - 平成25年度都市環境部主要事業について 他

第2常任委員会

《平成25年1月18日開催》報告及び審議事項

- 【市民健康部】
 - 平成24年度補正予算(案)について
 - ・重点分野雇用創造事業
- 【教育委員会】
 - 平成24年度補正予算(案)について
 - ・留萌市幼児療育通園センター改修事業
 - 平成24年フッ化物洗口実施経過報告について
 - 留萌小学校改築事業について
 - 佐賀番屋母屋の暴風雪による災害報告について



留萌市幼児療育通園センター

【市立病院】

○平成24年度患者集計表(12月分)について

《平成25年2月21日開催》報告及び審議事項

- 【教育委員会】
 - 平成24年度 3月補正予算(案)について
 - 平成25年度 一般会計当初予算(案)について
 - 留萌市社会教育委員設置条例の一部改正について
 - 留萌市における平成24年度全国学力・学習状況調査の結果について
 - 留萌市学校施設の耐震化状況について
- 【市民健康部】
 - 平成24年度 3月補正予算(案)について
 - 平成25年度予算(案)について
 - 留萌市指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスの事業に関する基準等を定める条例制定(案)について
 - 留萌市新型インフルエンザ等対策本部条例制定(案)について
 - 留萌市増毛町小平町市町村審査会共同設置規約の一部を改正する規約(案)について
 - 留萌市障がい者保健福祉計画(案)について
 - 生活保護受給者の就労支援について
 - 留萌市特定健康診査等実施計画(第2期)(案)について

【市立病院】

- 病院事業会計予算(案)の概要について
- 損害賠償の額の決定について
- 平成24年度患者集計表(1月分)について
- 患者一部負担金の未収金について
- 平成25年度医師体制について

もくじ

議会です こんにちは

平成25年第1回定例会(3月5日から3月19日)で可決されました報告1件、議案43件、意見書5件の内容を紹介します。

報告

第2号 専決処分の報告について(損害賠償について)

議案

- 第3号 平成24年度留萌市一般会計補正予算(第9号)
- 第4号 平成24年度留萌市国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
- 第5号 平成24年度留萌市後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)
- 第6号 平成24年度留萌市介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
- 第7号 平成24年度留萌市港湾事業特別会計補正予算(第3号)
- 第8号 平成24年度留萌市下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 第9号 平成24年度留萌市水道事業会計補正予算(第2号)
- 第10号 平成24年度留萌市病院事業会計補正予算(第1号)
- 第11号 損害賠償の額の決定について
- 第12号 平成25年度留萌市一般会計予算
- 第13号 平成25年度留萌市国民健康保険事業特別会計予算
- 第14号 平成25年度留萌市後期高齢者医療事業特別会計予算
- 第15号 平成25年度留萌市介護保険事業特別会計予算
- 第16号 平成25年度留萌市港湾事業特別会計予算
- 第17号 平成25年度留萌市下水道事業特別会計予算
- 第18号 平成25年度留萌市水道事業会計予算
- 第19号 平成25年度留萌市病院事業会計予算
- 第20号 留萌市議会議員及び留萌市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第21号 留萌市一般職員給与と条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例制定について
- 第22号 留萌市報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例制定について
- 第23号 留萌市職員退職手当支給条例等の一部を改正する条例制定について
- 第24号 留萌市水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について
- 第25号 留萌市コミュニティセンターの指定管理者の指定について
- 第26号 留萌市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定について

- P12 平成25年度第1回定例会議決事項
- P13 常任委員会の動き
- P14~18 第1回定例会一般質問項目
- P18 組合議会報告
- P19 議会活性化推進特別委員会からの報告ほか

- 第27号 留萌市議会の議員その他の非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例及び留萌市住宅改修促進助成条例の一部を改正する条例制定について
- 第28号 留萌市営住宅管理条例及び留萌市営改良住宅管理条例の一部を改正する条例制定について
- 第29号 留萌市営住宅等の整備基準に関する条例制定について
- 第30号 留萌市新型インフルエンザ等対策本部条例制定について
- 第31号 留萌市指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスの事業に関する基準等を定める条例制定について
- 第32号 留萌市廃棄物の適正処理及び環境美化に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第33号 留萌市道路の構造の技術的基準等を定める条例制定について
- 第34号 留萌市高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に係る道路の構造に関する基準等を定める条例制定について
- 第35号 留萌市準用河川管理施設等の構造の技術的基準等を定める条例制定について
- 第36号 留萌市都市公園条例の一部を改正する条例制定について
- 第37号 留萌市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例制定について
- 第38号 留萌市災害対策本部条例の一部を改正する条例制定について
- 第39号 留萌市防災会議条例の一部を改正する条例制定について
- 第40号 留萌市増毛町小平町市町村審査会共同設置規約の変更について
- 第41号 留萌市勤労福祉センターの指定管理者の指定について
- 第42号 留萌市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第43号 留萌市議会政務活動費交付条例の一部を改正する条例制定について
- 第44号 平成24年度留萌市一般会計補正予算(第10号)
- 第45号 平成25年度留萌市一般会計補正予算(第1号)

意見書

- 第1号 配合飼料の価格高騰対策を求める意見書
- 第2号 中小企業の再生・活性化策の充実・強化を求める意見書
- 第3号 ブラッドパッチ療法の保険適用及び脳脊髄液減少症の診断・治療の推進を求める意見書
- 第4号 T P P交渉参加反対に関する意見書
- 第5号 自治体財政の確保と地方分権の確立を求める意見書

平成25年第1回定例会

一般質問と答弁を

ご紹介いたします

鵜城 雪子 議員

(萌芽クラブ)

- 一、平成二十五年度主要施策の実施について
- ・ ゴールデンビーチるもい
- ・ 宿泊施設事業
- ・ 船場公園事業
- 二、今期の大雪対策について
- ・ 自衛隊協力要請
- ・ 災害対策本部の設置
- ・ 大雪に対する今後の課題



▲雪に埋もれたバス停

問一 新財政健全化計画は順調に推移していると聞いているが温水プールぶるもの休止

や町内会の助成など多くの課題が残されている。

この状況下で市街地から遠いゴールデンビーチの宿泊施設では経済効果が期待できない。街中の空き店舗利用や統廃合される空き校舎を活用するなどの検討をすべくではないか。また、通年使用の維持管理はどのように考えているのか伺う。

答一 留萌のイメージは海であり、海の体験が留萌を知ることになる。観光客やお試し移住により市内での経済効果が高まっていくと考えている。維持管理は観光協会と協議してこれから決めていきたい。

問二 市内は一月三日の記録的な豪雪の影響により、二週間余り留萌市の都市機能は完全にマヒし、特に交通機関には深刻な影響を及ぼした。

透析患者の命に関わる要請を受け、災害特別便を国内で初めて運行させるなど、路線

バスが正常化するまでに十五日間を有し、人命にも関わる非常事態だったと思うが、自衛隊に災害派遣要請を行わず、災害対策本部を設置しなかった理由を伺う。

答二 人命保護や人命救助に関わる事案は発生していないため、自衛隊への要請は必要がないと判断した。対策本部の設置をしなくても、除雪業者や関係機関との連携で対応可能だと判断した。

燕 昌克 議員

(萌政会)

- 一、エネルギーの有効利用について
- ・ 風力発電に伴う送電網の増強について
- ・ 木質バイオマスの可能性について
- 二、地産地消と一次産業の推進について
- ・ 農林水産業の推進について
- ・ 六次産業化の可能性について

問一 政府は二十五年度予算として、二五〇億円を投入し、旭川以北の三ルートで送電網を整備する予定であり、留萌においても風力関連の事業が進んでいくと考えるが、例え

二五〇億円を計上し風力発電などの導入拡大の推進に大きく動きまます。留萌市は自然エネルギー研究の先進的な取り組みをして、特に風力発電では優れた潜在力が評価され地域活性化策の積極的な取り組みが必要だと思いますが、見解を伺いたい。



▲留萌・礼受風力発電所

答一 昭和五十五年全国に先駆け「資源エネルギー課」を設置し風力・波力などの調査を行なった経過がある。

今後、国のエネルギー政策の動向を見守り、情報収集を行い、オロロンライン地域研究会や再生可能エネルギー振興機構に参加して、さまざまな再生エネルギー導入の可能性についての研究が必要と考える。

問二 財政健全化の判断比率(連結実質赤字比率・実質公

債費比率)の現状と今後(平成二十五(二十七)の見込みを知りたい。特に病院改革プランの病床利用率は二十四年七十%の目標を達成可能か。

答一 平成二十四年健全化判断比率の見込みは計画通り推移している。

今後、早期健全化基準を上回らない適正な運営に努めます。病院改革プラン病床利用率七十%達成は困難と思われる。



▲りんごのきもち

問一 留萌は海・山・川・湖をもった季節感あふれるマチであり、「留萌ならではの」を創るために、あらゆる分野の連携を進めていくことがこのマチの未来の発展につながる

と考える。六次産業化を軸とした具体的な考えを示してほしい。

答二 一次産業の価値を高めるために、六次産業化や生産者と関係者が連携した農商工

連携の取組を推進したい。減圧平衡発熱乾燥機を活用した乾燥りんごの商品が好調である。新たな商品化を積極的に進め、多様な業種が連携して取り組める体制づくりを進めていきたい。

野呂 照幸 議員

(民主クラブ)

- 一、市政執行方針における課題について
- ・ 地域経済の活性化について
- ・ 低所得世帯への支援について
- 二、温水プール「ぶるも」について
- ・ 安全・安心な地域づくりについて
- ・ 防災ガイドマップについて
- ・ 災害時の情報提供・情報伝達の強化について

問一 地域経済の活性化について、市長が唱える二期目の目指す留萌の姿は見えてきたのか。また、体験・体感宿泊施設について、過去のハコモノ行政が財政を厳しくした。

観光施策については、民間への支援などで実現すべきと

長会議を開き「通常の除雪体制で対応することを確認。除雪委託業者にバス路線の優先除雪を要請した」とある。

しかし、その後の事態は、市内循環バスが十四日間にわたって運休。介護ヘルパーが透析患者を背負って移送しなければならぬ。



▲除排雪作業

答一 積雪の多さ、オペレーターインフルエンザ罹患など除雪の遅れによりバス利用者に変不便をおかけしたことを申し訳なく思っている。

は、礼受より風況がよい三泊埠頭での風力発電事業は考えられないか。

答一 風力発電の送電網を整備する予算が計上されたことにより、新エネルギーの導入に向けた動きが活発化し、新産業創出等の増大など、風力発電の可能性に期待している。三泊埠頭は現在、荷さばき場、石炭の堆積場として活用しており、港湾計画との整合性や事業者との調整が必要であるが、設置は不可能ではないと考えている。

問一 留萌は海・山・川・湖をもった季節感あふれるマチであり、「留萌ならではの」を創るために、あらゆる分野の連携を進めていくことがこのマチの未来の発展につながる

と考える。六次産業化を軸とした具体的な考えを示してほしい。

答二 一次産業の価値を高めるために、六次産業化や生産者と関係者が連携した農商工

連携の取組を推進したい。減圧平衡発熱乾燥機を活用した乾燥りんごの商品が好調である。新たな商品化を積極的に進め、多様な業種が連携して取り組める体制づくりを進めていきたい。

問一 一月三日の豪雪災害と危険管理について

・ 豪雪・暴風雪対策について

二、地域の経済循環について

・ 地域の条件を活かした仕事の創出について

・ 異業種の連携・創意で新たな仕事の創出について

三、財政健全化について

・ 達成状況と人件費・ぶるもの再開について

・ 新規投資事業について

問一 一月三日の豪雪災害対策に当たって、市長は朝五時、九時、午後一時と三回にわた

平成25年第1回定例会

鵜城 雪子 議員

(萌芽クラブ)

- 一、平成二十五年度主要施策の実施について
- ・ ゴールデンビーチるもい
- ・ 宿泊施設事業
- ・ 船場公園事業
- 二、今期の大雪対策について
- ・ 自衛隊協力要請
- ・ 災害対策本部の設置
- ・ 大雪に対する今後の課題



▲雪に埋もれたバス停

問一 新財政健全化計画は順調に推移していると聞いているが温水プールぶるもの休止

や町内会の助成など多くの課題が残されている。

この状況下で市街地から遠いゴールデンビーチの宿泊施設では経済効果が期待できない。街中の空き店舗利用や統廃合される空き校舎を活用するなどの検討をすべくではないか。また、通年使用の維持管理はどのように考えているのか伺う。

答一 留萌のイメージは海であり、海の体験が留萌を知ることになる。観光客やお試し移住により市内での経済効果が高まっていくと考えている。維持管理は観光協会と協議してこれから決めていきたい。

問二 市内は一月三日の記録的な豪雪の影響により、二週間余り留萌市の都市機能は完全にマヒし、特に交通機関には深刻な影響を及ぼした。

透析患者の命に関わる要請を受け、災害特別便を国内で初めて運行させるなど、路線

バスが正常化するまでに十五日間を有し、人命にも関わる非常事態だったと思うが、自衛隊に災害派遣要請を行わず、災害対策本部を設置しなかった理由を伺う。

答二 人命保護や人命救助に関わる事案は発生していないため、自衛隊への要請は必要がないと判断した。対策本部の設置をしなくても、除雪業者や関係機関との連携で対応可能だと判断した。

燕 昌克 議員

(萌政会)

- 一、エネルギーの有効利用について
- ・ 風力発電に伴う送電網の増強について
- ・ 木質バイオマスの可能性について
- 二、地産地消と一次産業の推進について
- ・ 農林水産業の推進について
- ・ 六次産業化の可能性について

問一 政府は二十五年度予算として、二五〇億円を投入し、旭川以北の三ルートで送電網を整備する予定であり、留萌においても風力関連の事業が進んでいくと考えるが、例え

二五〇億円を計上し風力発電などの導入拡大の推進に大きく動きまます。留萌市は自然エネルギー研究の先進的な取り組みをして、特に風力発電では優れた潜在力が評価され地域活性化策の積極的な取り組みが必要だと思いますが、見解を伺いたい。



▲留萌・礼受風力発電所

答一 昭和五十五年全国に先駆け「資源エネルギー課」を設置し風力・波力などの調査を行なった経過がある。

今後、国のエネルギー政策の動向を見守り、情報収集を行い、オロロンライン地域研究会や再生可能エネルギー振興機構に参加して、さまざまな再生エネルギー導入の可能性についての研究が必要と考える。

問二 財政健全化の判断比率(連結実質赤字比率・実質公

債費比率)の現状と今後(平成二十五(二十七)の見込みを知りたい。特に病院改革プランの病床利用率は二十四年七十%の目標を達成可能か。

答一 平成二十四年健全化判断比率の見込みは計画通り推移している。

今後、早期健全化基準を上回らない適正な運営に努めます。病院改革プラン病床利用率七十%達成は困難と思われる。



▲りんごのきもち

問一 留萌は海・山・川・湖をもった季節感あふれるマチであり、「留萌ならではの」を創るために、あらゆる分野の連携を進めていくことがこのマチの未来の発展につながる

と考える。六次産業化を軸とした具体的な考えを示してほしい。

答二 一次産業の価値を高めるために、六次産業化や生産者と関係者が連携した農商工

連携の取組を推進したい。減圧平衡発熱乾燥機を活用した乾燥りんごの商品が好調である。新たな商品化を積極的に進め、多様な業種が連携して取り組める体制づくりを進めていきたい。

問一 一月三日の豪雪災害と危険管理について

・ 豪雪・暴風雪対策について

二、地域の経済循環について

・ 地域の条件を活かした仕事の創出について

・ 異業種の連携・創意で新たな仕事の創出について

三、財政健全化について

・ 達成状況と人件費・ぶるもの再開について

・ 新規投資事業について

問一 一月三日の豪雪災害対策に当たって、市長は朝五時、九時、午後一時と三回にわた

この経験を今後活かしたい。

問一 職員給与十五%削減、温水プール休止をそのままにして新たに借金をし「留萌体験・体感宿泊施設」を建設することを良とする訳にいかない。津波対策、防災が叫ばれる中でビーチに施設を造ることも適切とは思わないがいかがか。

答二 海での体験・体感、定住希望者の仮住まい拠点として、財政健全化計画範囲のもの。活用宣伝はこれから。

菅原千鶴子 議員
(民主クラブ)

一、船場公園の今後
・管理棟の機能について
・道の駅構想の具現化について

二、これからの教育行政の考え方について

・留萌小学校の校区傘下町内会との連携について
・開かれた学校づくりのために

・安心の学校給食施設について

三、定住促進と高齢者の生活
・高齢者の転出防止策
・生活支援ハウスの意義

ついて

三、留萌市における高等学校教育について
・留萌市の対応



▲障がい者保健福祉計画

問一 障害者総合支援法の制定にあたり、どのようなメニューが実施されていくのか。また、法定化された自立支援協議会の現状はどうなっているのか。

障がいのある人への理解と共感の醸成において、広報啓発の現状と市民との交流についてどう考える。

答一 メニューとしては重度訪問介護の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化、地域移行支援の対象拡大、地域生活支援事業の追加などがある。自立支援協議会は昨年一回の開催である。理解と

・空き店舗等の効率的な活用策

問一 今年度、管理棟実施設計に入るが財政難の中で進める事業として経済効果や、公園の持つ機能による観光や、市民の健康など波及効果を考えた最大限の活用が求められる船場公園の今後を市長はどうしたいのか。広く市民に問うべきではないのか。



▲船場公園

答一 補助事業の採択要件に合う最大限の活用を考えていく。

関係団体などの意見も聞きながら進めていきたい。

問一 毎年入ってくるより出て行く人のほうが多いのが現状だ。

それは若年者の就職先が少ないこともあるが、高齢者

共感については、障がいに対し、誤解や偏見があったり、社会参加が少ないこともあるため、広報誌で法改正や虐待防止の周知を行い、交流の機会として「ふれあい広場」スマイルハート劇場を実施した。

問一 留萌高校については、学区における学校・学科の配置状況や地域の要望等を総合的に勘案すると共に、今後の学校再編を円滑に実施するために平成二十六年に普通科単位制を導入するが、今後の対応をどう考える。

答二 平成二十九年度の再編に向け、普通科単位制と職業科学年制との学科集合型併置校の設置に向け、運営委員会において、学科・学級数・校舎を始めとする課題を整理し、議論を深め、平成二十五年度末までには道教委等に提示したい。

川口 宏和 議員
(萌芽クラブ)

一、平成二十五年度主要施策の特性について
・市民満足度アンケートについて
二、留萌市の景気対策について
・地域経済の活性化について

の転出もまた多いのが現実だ。平成二十三年八十八人、二十四年もすでに八十二人転出している。ゴールデンビーチに体験・体感宿泊施設を計画し、プチ定住を経験していただきたいということだが、今、この町に住む方達を優先するべきではないか。

高齢者の転出防止策として、安心の提供のために生活支援ハウスなどで街中居住の促進をしようか。

答二 独居高齢者が一人暮らしに不安を抱えていることは理解している。

地域包括支援センターを中心にニーズ把握に努めていきたい。長い入院生活の後、一人暮らしにまだ不安のある方などには必要だと認識している。

他の市町村などの様子も研究していきたい。

野崎 良夫 議員
(無党派)

一、財政運営について
・地方交付税
・公共事業
・職員給与
二、港湾行政について
・現状の課題

・地元企業対策と育成について

三、留萌市の人口減少問題について
・留萌市の人口減少の現状と課題について
・これからの対策について

問一 雇用の安定化、地域振興の推進、地域経済の活性化を図るための経済対策は急務だが、すぐに取り組まなければならない緊急経済対策、将来に向けての中長期的な経済対策についてどのような対策を講じることができるのか聴きたい。

答二 雇用安定化、地域振興の推進、地域経済の活性化を図るための経済対策は急務だが、すぐに取り組まなければならない緊急経済対策、将来に向けての中長期的な経済対策についてどのような対策を講じることができるのか聴きたい。



▲商店街

答一 市が取り組む施策が市内の経済活性化に結びついていくことから、農工商連携、観光振興、移住定住の促進、港湾の利活用推進など今後も国や道の制度を積極的に活用

今後の展望
三、水道事業について
・将来計画
・事業の執行体制

四、教育行政について
・学校給食
・文化施策

問一 港湾を見るとときに、船舶の入港数や、貨物の取り扱い量に注目が集まるが、留萌港の現状は極めて厳しい。

二十五年度は「留萌港貿易可能性調査事業」として、実証試験及び必要調査を行うとのことだが、物流の活発な展望について伺いたい。

答一 留萌港の背後圏における森林の樹種は、ほとんどがトドマツだが、伐採樹齢に達し、間伐を行うにしても、その利用がないことから、道内や国内だけでなく、海外（中国）に輸出することで、今後の活用施策と留萌港の利活用を見出ししていきたい。

問二 平成二十八年度までの九力年計画で、沖見配水場等の施設を改修し、施設全体の延命化を図る事業を進めているが、今後は、安心、安全を考えると、増毛町新信砂浄水場等の改修を進める必要がある。

するなどして、地域経済の活性化を図っていきたい。

問二 留萌市の人口は、昭和四十二年の四万二千四百六十九人をピークに平成元年から年間約四百人ずつ減り続けている。人口減少に関する課題と対策を聞きたい。

答二 生産年齢人口の減少割合が大きく、若年世代、働き盛り世代の減少が深刻であり、進学や就職、雇用の関係で転出することが人口減少の大きな要因だと考えている。

今後は国の制度などの情報収集に努め、さまざまな制度を活用するとともに、交流人口の増加につながるような地域経済の活性化が図られる事業などについて検討する必要がある。

村山ゆかり 議員
(萌芽クラブ)

一、留萌市文化芸術振興に関する基本計画策定に向けて
・子どもや若者の芸術文化振興策
・伝統文化の継承と発展
・文化財等の保存及び活動
・国際文化交流や観光を視点とした総合的推進
二、留萌港を活用した新たな

ると思うが、平成二十九年度以降の将来計画についてどのように考えているか伺いたい。



▲沖見配水場

答二 配水施設整備事業終了後の、二十九年度以降については、水道ビジョンに基づき、新信砂の取水、導水施設の改修、留萌までの延長十三kmの送水管の更新、耐震化を進め、施設の安全で安定した水道事業の運営に努めていく。

松本 衆司 議員
(萌芽クラブ)

一、「留萌ならではの創る」ために
・「対話」と「協働」「期待」に込められたもの
二、障がい者福祉について
・障害者総合支援法など国の施策について
・障がい者保健福祉計画に

事業展開
・留萌港貿易可能調査事業
・ユジノサハリンスク道北物産展参加事業
三、留萌市応援寄附事業
・寄附の受け入れ状況と基金の使用状況について
四、留萌市立病院への財政支援について

・一般会計からの特別支援
・特徴的な取り組みと成果
・財務内容に係る数値目標と達成度



▲佐賀番屋内

問一 文化芸術を醸成する基盤整備や環境づくりが十分。総合的な施策を推進するため基本計画策定を提案したい。文化団体等への支援策はあるか。
佐賀家漁場など文化財保存について今後の整備計画を聞

留萌南部衛生組合
議会報告

【答一】留萌市総合計画の政策（夢と宝）に現状課題と今後の方向性を定めており、文化芸術振興に関する基本計画を定めてはいない。
留萌で活動する文化団体は、約二十団体、会員四百人。会員数減少による活動停滞や高齢化など課題がある。地域に根ざした活動を支える人材育成など底辺拡大に取り組みたい。旧佐賀家漁場整備計画の見直しと史跡施設の現状維持のための保全計画の素案づくりを考えている。

平成二十五年一月十六日と十八日に倒壊した増毛町に建設中の最終処分場の倒壊事故を受け原因の究明をするために第三者機関（最終処分場被覆施設倒壊原因調査委員会）が設置され、調査が始まった。委員の構成は日本建築学会北海道支部構造専門委員会委員三名と都市防災専門委員会委員一名で構成されている。すでに調査は始まっており、調査期間は五月末を目途としている。



▲倒壊施設（増毛町）

また、調査に当たり、今後建設される施設の設計についても評価される見通しとなっている。さらに、建設に当たって

た事業者（共同企業体）も自らの内部検証作業を行い、調査内容が三月二十九日に留萌南部衛生組合議会議員協議会で報告された。
先の報告をより細密にわたる構造上の問題点について、報告が行われた。
議員諸氏からは内容説明に続いてさらに詳しい説明が求められた。
議員協議会では、四月から始まる新しいごみ処理について、報告が行われた。

報告事項

増毛町最終処分場の今後のスケジュールとして除雪解体工事と並行しながら、原因調査と、設計の見直しが五月末までに行われる。
その後、基礎アンカーの復旧工事が行われ、新たな被覆施設鉄骨工事が始まる予定となっている。完成は平成二十六年一月末を予定している。
プラスチック容器及びベクトボトルの処理について当面の間市内事業者へ搬入を予定している。
平成二十五年留萌南部衛生組合ごみ処理の流れにつ

留萌消防組合
議会報告

いて
ごみ処理試験について
完成前にごみ処理の最終試験を三月十五日から行う予定であったが、昨年末から続いた大雪により現場の除雪に期間を要し工期が遅れた。
完成引渡しが三月二十九日となり、最終試験が実施できなかつた。
生ごみを分解する分解用母材とおがくずの熟成作業は終了しており、四月一日供用開始には間に合うことができた。



▲小平生ごみ処理施設

平成二十五年留萌消防組合議会第一回定例会は、三月二十五日に開催された。
管理者である高橋市長からは「消防車両の更新整備について」として、留萌消防組合消防署に配置されていた、稼働年数が二十八年を経過していた水槽付消防ポンプ自動車の更新車両配備の行政報告があった。
議案としては平成二十四年度留萌消防組合一般会計補正予算（第三号）・平成二十五年留萌消防組合予算・留萌消防組合職員給与条例の一部を改正する条例制定・留萌消防組合職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定、以上四件の審議があり、可決した。



▲水槽付消防ポンプ自動車

議会活性化推進
特別委員会

委員長 野崎 良夫

委員会の主な決定事項

①議会基本条例策定の件

昨年六月に立ち上げた議会基本条例策定作業チームは、調査研究の結果、議会基本条例策定の必要性を強く感じ、策定に向けての方向性が出されたことと、チームを解散することとした。今後は、素案づくりから始まる作業については、議会基本条例策定小委員会を立ち上げ協議を進めていくこととし、今年九月第三回定例会までに、素案を策定することとした。

②未整理の課題解決の件

一昨年の九月に立ち上げた第一小委員会及び、第二小委員会は二十一項目の課題について協議を進めて来たが、反問権やFMもえるでの放送など十項目の課題が未整理となったが、小委員会の役割を終えたとして解散し、その課題を協議するため、新たに組織運営小委員会を立ち上げ、今年九月第三回定例会までに原則として結論を出すこととした。

議会基本条例
策定小委員会

当委員会は（留萌市議会基本条例）策定を目的に四月より八名で委員会を構成し、八月末までに素案づくりを進めその後、市民説明会等を経て正案作成に取り組みます。
議会基本条例とは、議員の責任や行動範囲、市民や行政との関係を明確にして市民と歩む議会、議員同士が討議する議会などを目指す議会の最高規範です。

組織運営小委員会

四月から新たなメンバーで残された課題をさらに煮詰め直すこととなりました。十項目にわたる内容の中には、課題としてさらに議論を深めなくてはならないものが多く、市民の皆様への付託を受けた議員として責任のある結論を導いていく所存です。
限られた時間の中ではありますが、一生懸命取り組んでまいります。

皆様のご意見を委員にお聞かせください幸いです。

検討事項

必要なか、どこの立ち位置を基点とするのか、留萌らしさをどのように条例に反映させるか、情報発信機能や見直し機能は、議会及び各常任委員会の自主的な活動、住民説明会意見交換会等十一項目の議論を進めます。

新しい委員

- 委員長 村上 均
- 副委員長 村山ゆかり
- 委員 珍田亮子、野呂照幸
- 委員 坂本守正、対馬真澄
- 野崎良夫、松本菜司

検討課題

- 反問権・協議等の場の会議規則・議会報告会・広聴、意見交換会（市民対応）・政策提言等の取り組み・議会改革の日常的推進・ビデオ放送・FMもえるでの放送・インターネット（ユーストリーム）
- 中継・市民モニター制度

新しい委員

- 委員長 菅原千鶴子
- 副委員長 坂本 茂
- 委員 燕 昌克、笹本牧司
- 委員 鵜城雪子、川口宏和
- 委員 小野敏雄、天谷孝行

傍聴記

日常的に、関係のある議員が、港湾行政についての質問をするとの情報を得、久しぶりに、議会を傍聴しました。

私も過去に港に係る職場で働いていたことから、港については常に関心を持ち、物流拠点道北の門戸港としての留萌港の行く末が気になっていたのです。

質問を聞く中で「港湾計画が現状にあっていないこと、外国貿易が少ないこと、取扱貨物量が減少していること」などが明らかになりました。

フェリー誘致運動はいったい何であったのかと疑問に感じています。

質問時間の制約があるので問いたすことにも限界があるのでしょうか、港湾問題に絞って質問することも必要でないかと思いました。

市民は港を生かした町づくりに対して多くの不満がありますので、港の物流に積極的に取り組んで下さい。

増木 國之助

議会の傍聴は四回目ですが議員の方々の真剣な質疑、それに対する応答が整然としていてわかりやすかった。

それは、女性議員の数が増えたせいかな緊張感の中にも温かさが伝わり以前より身近に感じられた。一時間ぐらい空白な時間があり、傍聴席のほうにも知らせてほしかった。

新財政健全化計画はほぼ順調に推移しているとはいえ留萌の抱えている問題は厳しく、限られた予算の中で「留萌ならではの」感じられる住みやすい街づくりを考えてほしい。

議員削減という市民要望も一部あり今後の課題の一つになると思うが、きめ細かい施策を市民と一緒に創って行くためには減らすことより多くの声を市政に反映するよう議員の方々の一層の努力と研鑽とその活動する姿を見せていただきたい。

特に女性議員の生活に密着した積極的な行動力に今後の留萌の大きな原動力になることを期待したい。

八幡 洋子